

# くまむら農業・最適化推進運動

農委会名：球磨村農業委員会

## 1 地域の概要

本村は熊本県の南部に位置し、村の面積の約88%が山林で、中央を日本三大急流の1つである球磨川が貫流している。その球磨川の支流には、多彩な棚田が広がっており、「松谷棚田」「鬼ノ口棚田」は「日本の棚田100選」にも選ばれている。

また毎床地区で作られている「一勝地梨」は2012年に植栽されて100年を迎え村の特産品として全国各地に出荷されている。

## 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 7人（うち、認定2人、女性1人）
- (2) 推進委員数 6人
- (3) 事務局体制 2人（専任）

## 3 掲げた目標

農業就業者の7割を占める60歳以上の世帯が高齢化等によりリタイヤし、その影響で利用状況調査の結果では遊休農地・荒廃農地が本村の農地の半分を占めている。そのため「活かすべき農地」を明確化するために50ha非農地判断することを目標とした。

## 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

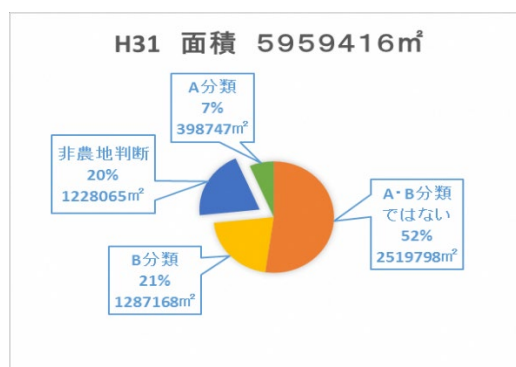
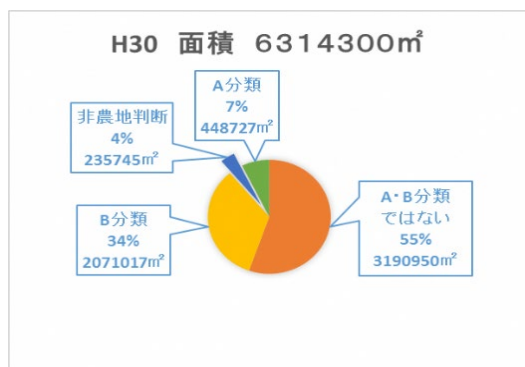
農地パトロールを7月～11月にかけて実施し、その中で再生利用が困難な農地から農用地の有無、資料作成、現場確認をし、総会で非農地判断を行った。

また毎年行っている「遊休農地解消運動」の一環として、県道沿線にヒマワリを植え、耕作放棄地防止を呼びかけた。



## 5 取り組みの成果

昨年は全体の4%しか非農地判断することが出来なかったが、今年は農業委員・農地利用最適化推進委員が積極的に取り組んでくれたおかげで、全体の20% 122ha 非農地判断することが出来た。



## 6 課題と今後の方針等

人・農地プランのアンケート結果をもとに農地の貸し手や借り手の意向を把握し、農地中間管理機構を活用しながら農地集積・集約化につとめたい。そのためには集落における話し合いの場を設け、農業委員・農地利用最適化推進委員全員で取り組んで行くことが大事である。

また今後も、耕作放棄地の防止及び解消に向け、景観美化活動も引き続き行っていく。